

【講演資料】

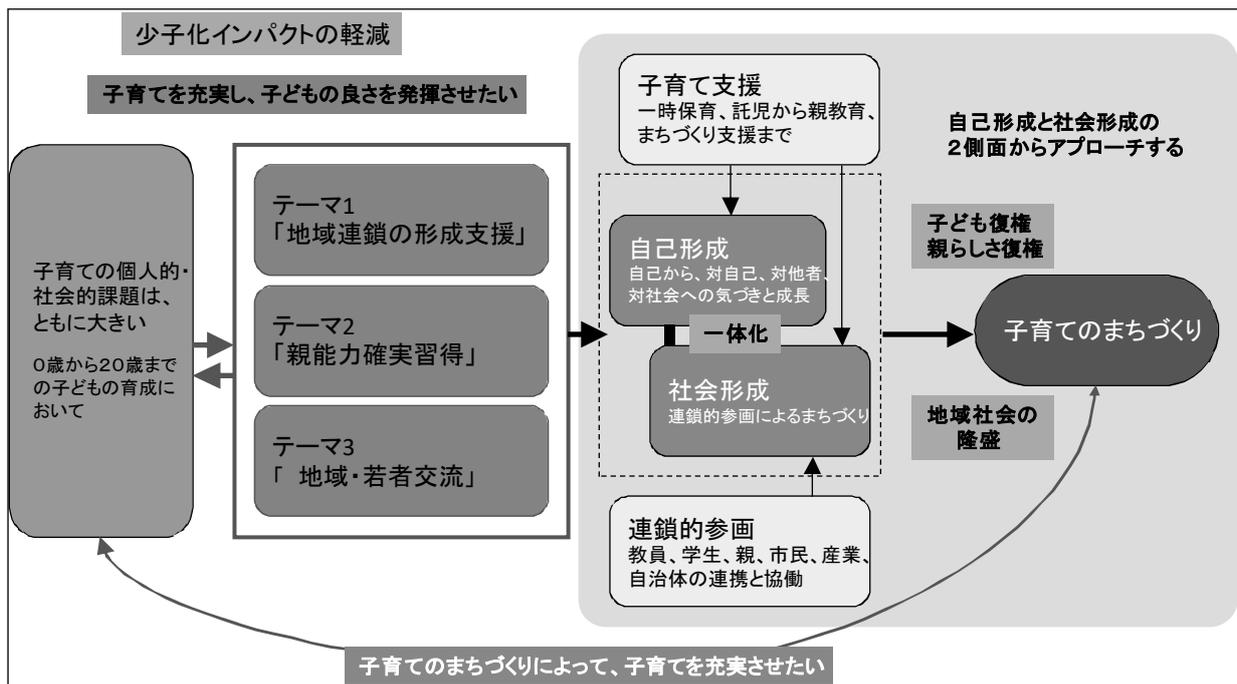
2017年2月12日 平成28年度東郷町社会教育委員会自主事業  
 「子どもの将来性とは何か 親や地域住民はどう関わるか」  
 ～みんなで探ろう子どもの未来～

聖徳大学文学部キャリアコミュニケーションコース教授

西村美東士

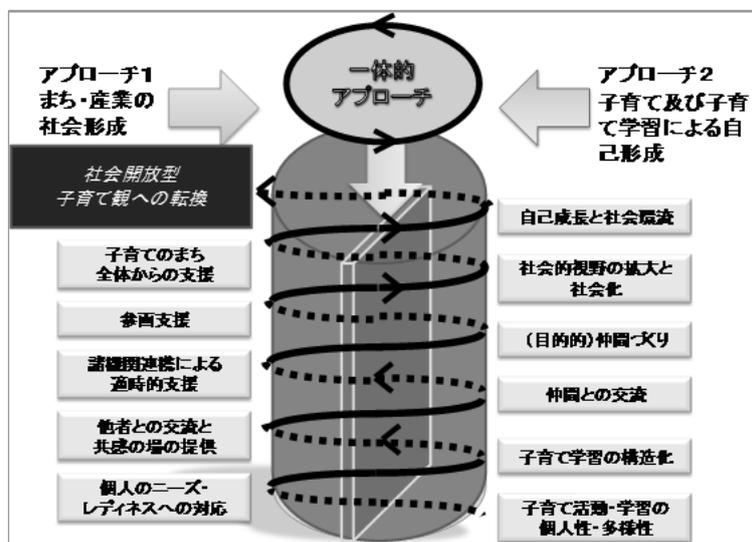
<http://mito3.jp/>

1. 聖徳大学平成17～21年度『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究』より
- 1.1. 子育てによる自己形成と社会形成の一体化



聖徳大学連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究 全体構造図

- 1.2. 個人完結型から社会開放型への子育て観の転換



「社会開放型子育て観」をキー概念とした一体的アプローチの要素と構成

2. 社会的観点から見た子育て・若者育ちに関する文献（西村美東士『週刊教育資料』書評より）

2.1. 自由格差社会における「個人化の罫」のなかで、自己決定能力を育てるために



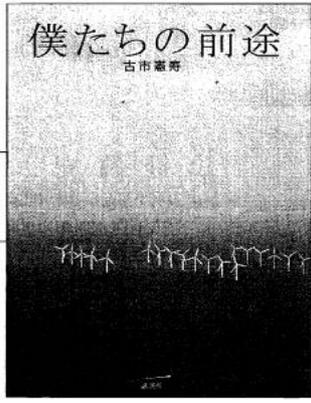
この本では、猛烈とは一線を画す起業家たちが登場する。古市氏自身も社員3人のITベンチャー企業の一員だが、儲かっても上場しない、社員も増やさない、同じマンションに住み、会社はファミリーのような存在だという。切磋琢磨よりは共存と「つながり感」を大切に、無傷で働くこととする今の若者を彷彿とさせる。古市氏は、起業を勧めようとしない。最終章近くでは、「自由格差社会」という言葉を提起する。ビザなしでも多くの国に自由に行ける、でも、帰ってこれなくなっても「それも自由だ」と揶揄する。評者の周りにも「面倒だから海外旅行はしたくない」という若者が増えているのも頷ける。今や、自由は、手放して喜べることはない。起業の規制緩和に対しても同様のな

この本では、同様に個人の自由な選択に責任が帰せられる個人化のマイナス面を強調する。しかし、若手社会学者である古市氏は、「どうせお金を稼ぐなら好きな人と好きなことをやってほしい」「社会を変えたいなんてだいたいそれな気持ちはない」と言う。

社会学では、彼に「個人化の罫」からくり抜けてきたといえる。

さて、教育においては、「自由格差社会」の中、どのように若者の労働観を育てるのか。「猛烈に自己決定で生きよ」というのか、それとも「自分らしさを大切にするためには、くぐり抜けよ」というのか。評者は、理想追求の教育においては、そのどちらでもなく、青少年の個人化のプラスの側面を伸ばしつつ、私生活を大切にしながら、職場や地域では、他者と切磋琢磨し、支え合う人材を育成することが可能と考える。

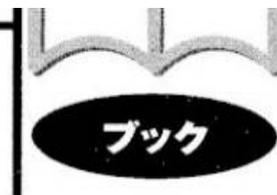
（聖徳大学教授・西村美東士）



**僕たちの前途**

古市憲寿 著  
1890円 講談社  
☎03-3945-1111

2.2. 若者バッシング言説を疑え



友人については「希薄化ではなく、選択化や同質化」、恋人については「情熱より安定した関係性」、メディアの利用形態については、「ネット利用による多元的自己及びSNSによる自分らしさ探求」、音楽については「好みの細分化と感情サブリとしての利用」、読書については「自己啓発書により自己を操作するという感覚」。

また、浅野氏は、2012年調査データの若者と中年との比較により、生活満足度が経済的要因のほかに、若者のみの傾向として、友人と家族の親密性と正に関連していると述べ、「幸福感の高さ」と人間関係の独

この本では、「青少年研究会」の1992年から10年ごと計3回の神戸、杉並の調査データから、次の傾向を裏証している。

自の意義を主張する。藤村氏は、同一世代を時系列的に追う定点観測的視点、中年世代も交えた横断的視点、コーホート（同時経験集団）分析による縦断的視点によって、若者世代の特徴と考えられてきたものを相対化する研究の意義を主張する。

教育界でよく取り沙汰される若者の道徳意識の低下、友人関係の希薄化などの言説について、この本はデータに基づいて、正反対の検証結果を提示しており、傾聴に値する。それでもなお、評者は、それらの一見「好ましい傾向」が、じつは「不安感社会」における防衛的態度の表れになっており、生涯にわたって仕事、私生活、地域・社会において能動的に活動するためのものにつながっていないと考える。教育においては、社会形成者の育成に向けて、タイプ別の深掘りによる正しい生徒理解を進める必要があるだろう。

（聖徳大学教授・西村美東士）



**現代若者の幸福**  
不安感社会を生きる

藤村正之、浅野智彦、羽淵一代 編  
2592円 恒星社厚生閣  
☎03-3359-7371

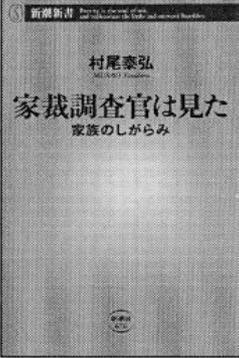
2

2.3. 学校と家庭だけで子どもを守るのは無理—共存の作法からの飛躍はいかにしたら可能か



村尾氏は、「人生最凶の人は家族」と訴える。とりわけ氏の「駆け出し」の頃の失敗談は示唆に富む。覚えい剤乱用少女のサヤカの「社会で立ち直りたい」と懇願し続ける気持ちに氏は賭け、民間団体に身柄を預ける措置をとった。だが彼女は失踪し、警察に保護される。彼女は氏に小声で言う。「先生、ヤクザつてすこいよ。シャブやってる女の子がいるって聞いたら、そこにさっと集まって来るんだよ。」結局少年院に送られたサヤカだが、半年後に再会したとき、氏は胸が熱くなる。サヤカは幼い少女に戻っていたのだ。学校においても、学校や家庭だけで生徒を守り切るうとするのではなく、地域や社会の教育的諸機能と連携して対応することが大切だといえよう。

終章では、子どもや若者のよ



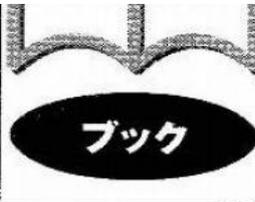
村尾泰弘 著  
778円 新潮社新書  
☎03-3266-5111

一般的問題について論じる。ギャングエイジを経ない子どもが増え、互いに腹を割って話をする場がなくなっている。これに対して氏は深い人間関係を樹立する指導を提唱する。

評者は考える。深く関わらないことは、いまや中高年にまで至る個人化社会における衝突しないための共存の作法であり、さらには距離と親密を二律背反としない傾向まで生まれつつある。このようなとき、村尾氏のいうような深い人間関係を樹立するための展望と方法は、子どもに、若者に、親に、教師に対してどのように指し示すことができるのか。この時代において、「深い人間関係の樹立」自体、とんでもないアナクロにもみえる。しかし、人々が学びあい、支えあう社会の形成を教育の目的とするならば、その樹立こそ教育にとっての不可欠な「現代的課題」と考えるべきなのかもしれない。

(聖徳大学教授・西村美東士)

2.4. アウトカムの重視



「ラーニング・アウトカム」(学修成果)については、日本では「知識、スキル、態度」のことを指しているが、米国ではアカデミックなものだけでなく、「4年間で学ぶ学術的、社会的、人間的な素養を包括」するものとし、「コネチカット大学の「アウトカム・ピラミッド」の例を紹介する。そこでは、最上位の建学の精神が、多様、複雑になって、最底辺の1回ごとの授業にいきわたり、目的と学修成果が明確にされ、



早田幸政 著  
3240円 エイデル研究所  
☎03-3234-4641

本書は、各評價機構における大学評価のポイントを解説したのち、大学の質保証に関する論考を行う。そこでは、中等教育までに追求されてきた「確かな学力」の裏付けを伴う「生きる力」を一層発展させ、生涯にわたって必要になる力を培うよう求められるという。

本書巻末の座談会では、教職員がこのような大学改革に対して、研究時間が奪われるなどの「被害者意識」に染まらずに協力するよう求められている。たしかに、大学教員の教育能力開発の取り組みが本格化する今日、このような「被害者意識」は、裏で蔓延しているような気がする。しかし、評者は次のように感じている。研究はできるけど、教育はできない教員など、実際にいるのか。研究も教育もできるか、どちらもできないかのどちらかなのではないか。繁忙感のみに終わる空しい時間を削ぎ落として、研究と教育の両方の質の向上に時間をかけるようにすることが必要だ。

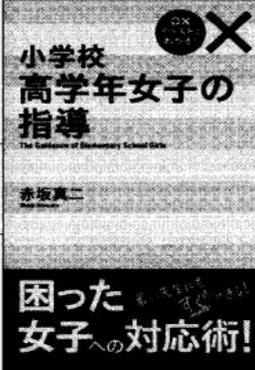
(聖徳大学教授・西村美東士)

2.5. 女子特有の問題－「居場所」と「ウラ攻撃」

**ブック**

赤坂氏は、小学校高学年女子との関係づくりが難しい理由として、彼女たちの形成する私的グループの存在を挙げる。グループの一人を叱るなどして関係が悪くなると、グループ全員と関係が悪化する。このように、グループとは、男子にとつては共通の取り組みをするための手段だが、女子にとっては、居場所そのものである。そのグループのなかでは、男子は暴力等の「オモテ攻撃」が多いのに対して、女子は無視、手紙回し、陰口、ネットいじめなどの見えにくい「ウラ攻撃」が横行しがちであり、今日の①自信の喪失、②個人攻撃しやすい密室性のあるメディア、③他者への共感性の未発達、がその傾向を増幅させていると言っている。

赤坂氏は、その傾向をアドラ心理学の視点から「居場所



**困った女子への対応術!**

**赤坂真二 著**  
1058円 学陽書房  
☎03-3261-1111

○×イラストでわかる! 小学校高学年女子の指導

への「所属欲求」の表れととらえる。その上で、「全員をひいきする」「グループ全体を視野に入れる」「感情を理解する」よう教師に提案し、いじめ、仲間はずし、グループ対立、集団反抗などへの予防策や対応術を具体的に解説する。

評者は次のように考える。男子を含めた青少年一般において、スクールカーストなどの格差の固定化のなかで、他の層との交友が遮断されて共存状態になり、その分、グループ内の関係が閉塞化しているのではないか。これに対して、今の同一化集団から、たとえいつかは孤立したとしても、一人で調べ、考えるような「個」を育てる教育の役割が重要であろう。そのためには、異年齢、異世代、異質の者との交流による「居場所」において、自信と共感能力を育てることによって、社会に開かれた視野の拡大と自立を促すことが必要と考える。

(聖徳大学教授・西村美東士)

2.6. 女子特有の問題－異質の他者との交流を誘導せよ

**ブック**

著者松谷氏は、1980年代前半から2012年までの約30年間の女子のコミュニケーションを、社会学の視点から、「ギャル対不思議ちゃん」という構図で描き出す。「ギャル」は、コギャル、アムラー、ガンダロ、age嬢であり、「不思議ちゃん」は、ナゴムギャル、シノラー、裏原宿系である。ギャルと不思議ちゃんは、時に強く意識し合い、独自性を確認しようとして戦ってきた。ギャルは不思議ちゃんという少数派を「変だよ」と言い合うことによって同化圧力を維持し、不思議ちゃんはギャルという多数派を「つまらない人たち」と評することによって、自分たちの「存在確認」をしようとしてきた。

このような女子特有の対立構造は、学校の中にも見られよう。DeSeCoのいう「異質な集団



**松谷創一郎 著**  
2310円 原書房  
☎03-3354-0374

**ギャルと不思議ちゃん論**  
女の子たちの三十年戦争

で交流する」というキー・コンピテンシーの育成も簡単にはいかない。

だが、終章において、きやりーはみゆはみゆの分析に至る時この対立構造の鮮明さに、やや陰りが生ずる。彼女の奇抜なフアッション、ブログでの「変顔」などは、「主流派に対する差異化として、つまり不思議ちゃんとして機能」している。しかし、「多元的な自己」を操って生きる若者たち」にとつて、多数派の渋谷系に対する少数派としての彼女の原宿系フアッションを、交友に合わせて選択することは「不思議」ではない。

現代青年のこのような「多元的自己」は、「存在確認」というより「存在戦略」と捉えられる。だとすれば、われわれも、これを上手に誘導し、彼らが同化圧力を乗り越え、異質の他者と交流して、より良い「存在確認」ができるよう、戦略を立て直すべきといえよう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

2.7. 偏差値エリートの危うさ-30代ニート

ブック

同書は、育て上げネット来所者に関する調査報告書である。第1章「若年無業者の経歴による分析」では、

2367人の若年無業者のデータを年代、職業、無業期間別に分析する。「正規職で働いていたが、仕事でつま

ずき退職した後、長く就労に踏み出せないままの

30代の若者」については、高学

歴層が多いが、中退層も1割近くいる。正規職

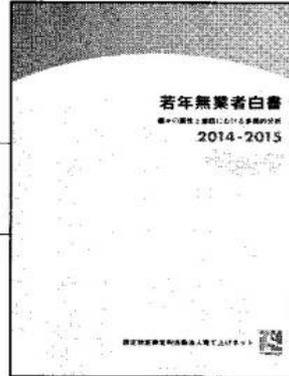
歴のある他の層が「PCを習い

たい」を強く希望しているのに対して、「自分に合う仕事をしたい」「働ける自信をつけたい」を希望

(6割強)している。性格については、「対人関係が苦手」(4割強)

よりも、「よく真面目だねと言われる」「考えすぎてしまう」という傾向(6割前後)が目立つ。

第2章「支援対象者とアウトカム」では、外に出て友人・知



若年無業者白書2014-2015  
個々の属性と進路決定における多面的分析

小野塚亮 他著、NPO法人育て上げネット 編著  
3780円 バリューストックス  
☎0120-826-293

人などと接している人は進路決定できているなどの傾向が示されている。第3章「ジョブトレ」と地域若者サポートステーションのアウトプット比較」では、育て上げネットの有償自主事業「ジョブトレ」(各自の個別的な課題設定に基づいた、グループ行動を基本とする継続的なメニュー)に利があったことから、本書では「サポートの支援に制約をかけている仕様書のあり方」に疑問を投げかけている。

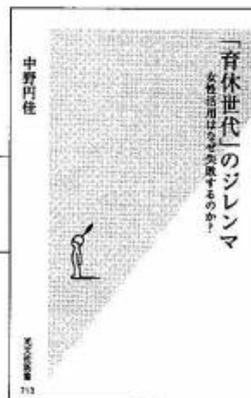
同ネットへの来所者のなかには、旧帝大卒で一流企業社員の経歴をもつ若年無業者も多いと聞く。評者は考える。過去の学校歴社会の「制約」のままで、生徒の生涯にわたる個人的、社会的充実を保证する教育は実現できない。今日の個人化、流動化社会における、職場・家庭・地域での自己発揮のための基礎づくりこそ、学校教育の新たな役割といふべきであろう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

2.8. 偏差値エリートの危うさ-女子バリキャリ

中野氏は、1999年の改正均等法以降入社した旧帝大出の一流企業総合職女子を中心に、15人のエリート女子の育休取得後の挫折を追う。

彼女たちは、男並みに仕事で自己実現すること(バリキャリ)と、早めに出産して子育てするという「産め働け育てるプレッシャー」のジレンマに陥るといふ。「生きづらい」などと口走れば、他の女子から「あの人はちがって勝つ組だから」と距離を置かれる。育休明けに復職しても、周りから「配慮され」、バリキャリの時のようには働かせてもらえない。彼女たちは、子にはお受験をさせない。自らは高い学業と社会的地位を達成しながらも、今となっては喜ばないでいるのだ。



「育休世代」のジレンマ  
女性活用はなぜ失敗するのか?

中野円佳 著  
950円 光文社新書  
☎03-3942-2241

てしまう。そもそも就活中も、やりがい重視のため、復帰に不都合な職場を選んでしまっている。

すべてが自己決定に帰結され、社会に対する無関与が広がるこのような状況に対して、中野氏は、「既存の構造を疑い、新しい価値を生み出し、社会を変えていく人材を育てる」よう提唱する。

評者は次のように考える。エリート女子といえども、一般の現代青年と共通の課題をもって

いる。現実社会において重要なのは、自己実現を自己内で完結させずに、他者と自己実現を互いに支え合うことである。夫ともコミュニケーションをとらなければならぬ。職場や地域の未来のリーダーを育てるためには、このような視点が求められる。

(聖徳大学教授・西村美東士)

BOOK

2.9. 良好な友達付き合いよりも、異質の他者からの影響が重要

**ブック**

溝上氏は、クラスタ分析により、「勉学」、「交友通信」、「読書マ」ンガ傾向」、「ゲーム傾向」、「行

3年に全国の高校2年生約4万5千人から回答を得た。その後、大学1、2、4年、社会人3年目の、約10年間の追跡調査を行うことになっている。

本書のキーワードは（学校から社会への）「トランジション」（移行）である。「教室外学習」「対人関係・課外活動」「キャリア意識」の重要性が示唆されたという。また、対人関係力の弱い生徒は、知識習得型からアクティブ型への学習の「拡張」についていけないという新たな仮説も提示している。

溝上氏は、クラスタ分析により、「勉学」、「交友通信」、「読書マ」ンガ傾向、「ゲーム傾向」、「行

溝上氏はら高校生の学習や生活が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生に与える影響を明らかにするため、2013年に全国の高校2年生約4万5千人から回答を得た。その後、大学1、2、4年、社会人3年目の、約10年間の追跡調査を行うことになっている。

**どんな高校生が大学、社会で成長するのか**

「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ

著 溝上 慎一

京都大学高等教養研究開発推進センター・河合塾 編

2592円 学事出版 ☎03-3255-5471

事不参加の7タイプを導き出す。勉学タイプは、8割が部活動と両立しており、「よく学び、将来に向けて頑張り、自己成長を実感している」タイプとされる。しかし、大学生については、氏は他著で、社会人調査の結果から、大学在学時に勉学第一とした者は、仕事では良い成果を出していないと指摘する。組織での成功のためには、学生時代に良好な友達つきあい以上の、質の豊かな人間関係による、異質な他者からの影響が大きいというのだ。どちらも実感できる話だ。

氏は、勉学タイプにおける部活動と学習の両立が大学生になってからの主体的態度につながるかどうかを今後の追跡調査の課題としている。

評者は、高校生から大学生への「移行」において、部活動の積極性を超えたレベルでの自己開発と社会的関与に関する態度変容が求められるのではないかと（聖徳大学教授・西村美東士）

溝上氏はら高校生の学習や生活が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生に与える影響を明らかにするため、2013年に全国の高校2年生約4万5千人から回答を得た。その後、大学1、2、4年、社会人3年目の、約10年間の追跡調査を行うことになっている。

2.10. ワークだけでなく、ライフ、ソーシャルを大切にできる人に育てる

**ブック**

「業績目標の達成に強くコミットしている」の三つである。氏は、仕事（ワーク）と共に、私生活（ライフ）と社会活動（ソーシャル）という3本柱の生活「が人生を強く豊かなものにしてくれる」と言う。

さらに氏は、時間泥棒トップ3として、「資料作成」「メール」「会議」を挙げる。たとえば会議については、ゴール決め、資料の事前配布、人数絞りの三つで

他者との対立や私生活への犠牲を避けようとする今の若者を、流動化社会の中でどう育てるか。川島氏は、社員を育てる「イクボス」が必要だと言う。それは、部下の私生活に配慮しながら、業績目標を達成させるといふ新しい管理職像である。その要件は「部下の私生活とキャリアを応援している」「自らも仕事と私生活を両立させている」「業績目標の達成に強くコミットしている」の三つである。氏は、仕事（ワーク）と共に、私生活（ライフ）と社会活動（ソーシャル）という3本柱の生活「が人生を強く豊かなものにしてくれる」と言う。

**いつまでも会社があると思うなよ！**

川島高之 著

1512円 PHP研究所

☎03-3520-9633

「業績目標の達成に強くコミットしている」の三つである。氏は、仕事（ワーク）と共に、私生活（ライフ）と社会活動（ソーシャル）という3本柱の生活「が人生を強く豊かなものにしてくれる」と言う。

さらに氏は、時間泥棒トップ3として、「資料作成」「メール」「会議」を挙げる。たとえば会議については、ゴール決め、資料の事前配布、人数絞りの三つで

他者との対立や私生活への犠牲を避けようとする今の若者を、流動化社会の中でどう育てるか。川島氏は、社員を育てる「イクボス」が必要だと言う。それは、部下の私生活に配慮しながら、業績目標を達成させるといふ新しい管理職像である。その要件は「部下の私生活とキャリアを応援している」「自らも仕事と私生活を両立させている」「業績目標の達成に強くコミットしている」の三つである。氏は、仕事（ワーク）と共に、私生活（ライフ）と社会活動（ソーシャル）という3本柱の生活「が人生を強く豊かなものにしてくれる」と言う。

2.11. 孤立ではないが、混じらないという生き方

ブック

篠田氏の「一人で自由に生きる」という指針は、社会化重視の教育の価値観と一線を画している。彼女は、生涯一人身で、

美術家団体にも属さず、墨を用いた抽象表現主義者として活躍しており、今でも人生の楽しみは無尽蔵だと言

う。人という漢

字は、「人が支え合う」のでは

なく、古来の甲骨文字では、一

人で立ち、両手を前に出して、

何かを始めようとしているので

はと彼女は言う。

また、歳をとると、過去を見る目に変化が生まれ

肯定、否定の両面が生じ、あきらめと悟りが生ずる。彼女は、

これを、高いところから自分を俯瞰する感覚だと言う。個人化

社会における「無所属」「悟り」の若者と通じるころがあり、

若者や退職を控えた教員にとって参考になると思われる。

「結構」という言葉は、良いと



篠田桃紅 著

1080円 幻冬舎  
☎03-5411-6222

一〇三歳になってわかったこと  
～人生は一人でも面白い～

いう意味と、いらぬという意味が同居している。彼女は、これを、余白を残し、臨機応変に加えたり減らしたりすることのできる「いい加減」という言葉と同様の自己主張の教育ばかりが良いのではないかもしれない。

そのほか、常識に生きなかつたから長生きできた、ほかに頼らずに自分の目で見る、人生を

歳で決めたことではない、規則正しい毎日から自分を解放する、

などの含蓄が豊富な言葉があふれている。とりわけ、「自由と個性を尊重するから孤独」かつ「コ

ミュニケーションが大切」、孤立ではなく、人と交わらないので

もなく、混じらない、よりかからないという考え方は、仲間と群れたがる若者にとっても組織

の一員としての教員にとっても個人化社会を充実して生きていくための根源的な示唆を与えて

くれよう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

(聖徳大学教授・西村美東士)

2.12. 公平・平等の幻想を見直す

ブック

常見氏は、先行研究や関連テーマに基づき、次のように提言する。「自由競争」や「公平・平等」の幻想に

より、学生が「就活うつ」や新卒無業者に追い込まれている。現実には、高卒・大卒などの「タテの学歴」に加え、学校名などの「ヨ」の学歴」による「学歴フィルター」まで存在するのに。

さらに、この卒業生は良くないなどの、個人差を無視したラベリングも行われる。これらは

努力しても報われない競争である。これに対して、ほとんどの学生が登録するマイナビ、リクナビなどの就職情報会社は、自由かつ大量の応募による個人間の競争を実現する。これらは努力して報われる可能性のある競争ではあるが、熾烈化して学生

も企業も疲弊している。

このような実態のなか、常見

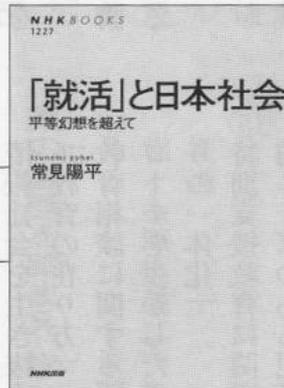
氏は、スカウト型の求人サイトや、カウンセリングによって採用可能性の高い企業を学生に紹介する人材ビジネス企業に期待を寄せる。その文脈から、「競争が平等ではないことに気づき、弱者は弱者なりの生存戦略を考えよう」と提唱する。そして、「偽装された自由や平等は暴力であり、民衆を希望の奴隷にする」と締めくくる。

評者は考える。若者に希望を与えない教育など存立しえない。しかし、不平等の現実のなかで、多くの若者が苦しんでいる。われわれは有名企業への就職願望に代表されるような「希望」の

質自体を考え直す必要があるのではないか。小学校でも起業家教育が始まった。また、職業、家庭、地域、社会生活という視野の広がりにくくして、生涯の充実はない。その基礎づくりこそ、学歴社会から生涯学習社会への転換期における学校教育の役割にほかならない。

(聖徳大学教授・西村美東士)

(聖徳大学教授・西村美東士)



常見陽平 著

1242円 NHKブックス  
☎03-3464-7311

「就活」と日本社会  
平等幻想を超えて

2.13. 「いつものみんな」ではなく、ゆるやかな外部に開かれたつながりを

**ブック**

「人間関係の常時接続」により、リアルとネットが地続きの世界になった。本書は、各種データを駆使し、その自由さが満足感を上昇させるとともに、「安定した基盤がないため不安感も募る」という負のスパイラルを呼び起こすという。日本の女子中高生は、中サラリーマンよりも日常的に疲れやストレスを感じている。そのストレス源は、先輩や後輩とのタテ関係ではなく、同級生とのヨコ関係にある。そのため同調圧力がいじめにもつながるといふ。

土井氏は、快樂ではなく不安からのスマホ依存、イツメン（いつも一緒にいるメンバー）同士のしがらみによる親友を作れない状況、「承認願望（「いいね」を押してもらうこと）の肥大化などを指摘する。その社会的背景としては、2001年の小泉

内閣の新自由主義を特筆する。不確実性が可能性ではなくリスクとしてとらえられ、新しい出会いよりも目先の確実な人間関係を求めるようになったというのだ。

終章「常時接続を超えて」では、「学校や地域の『みんな』という場の倫理が、個の倫理を圧殺しかねない」と指摘する。その上で、「自分が求められ、頼りにされれば、異質な相手ともつながり、そこに自分の存在価値を見出す」とし、学級内の閉じた強固な一致団結ではなく、ゆるやかに外部に開かれたつながりにするよう提唱する。

つながりを煽られる子どもたち  
ネット依存といじめ問題を考える

評者は、学校のもう一つの役割を感じる。授業は一人の世界に埋没させて、自己内対話を行わせる時間ではないか。それは、彼らをつながり依存から解放させて自立させる貴重な時間になると考える。「みんな」への負の同調圧力を助長するようなどがあってはならない。

（聖徳大学教授・西村美東士）

土井 隆義 著  
670円 岩波ブックレット  
☎03-5210-4111

2.14. 不透明社会における生き方選択

**ブック**

片桐氏は、1987年から5年置きに大学生調査を行ってきた。本書は、2012年調査結果（関西4大学文系学生652人）の分析を主な内容としている。

性別役割については、家事育児は女性のほうが向いている、「公平に分担する」より「夫もできるだけ協力」、出産したら仕事をやめる、男らしい・女らしいと言われたら嬉しいなど、保守的傾向が見られた。親子関係については、親のようにになりたい、子どものままでいたいなど、「反抗期なき若者」という傾向が見られた。社会関心については、戦争への不安が減少し、電車やバスで席を譲る、地域行事に参加しているなどが増えたが、社会運動への参加意欲は減った。政治意識については、福祉社会よりも、

競争社会、統制社会を理想の社会とする学生が増えた。生活意識としては、生活満足度が向上し、生活目標としては、この10年で「豊かな生活」が減り、「なごやかな毎日」「自由に楽しく」が増えた。職業面では、出世意欲が減退し、女子は「気楽な地位にいたい」、男子は「遊んで暮らしたい」が増えた。氏はこれを「不透明社会の中のゆとり世代の生き方選択」ととらえる。

明るい未来を期待できない若者たちが、未来よりは現状を楽しみたいとするのは当然という見解もあるが、氏は「それでも彼らはこの不透明な道を歩いていかなければならない」と指摘する。卒業後も不透明社会を生きていく生徒に対して、「学校で友達という今が楽しい」だけでなく、予測がつきにくい社会の中にあっても自己の位置決めをして卒業していけるよう支援する必要があると評者は考える。

（聖徳大学教授・西村美東士）

不透明社会の中の若者たち  
大学生調査25年から見る過去・現在・未来

片桐新自 著  
2160円 関西大学出版部  
☎06-6368-0238



2.15. 大学生にとって「勉学第一」よりも大切なキャリア意識

この本では、組織社会化（個人の企業への適応）研究の枠を超え、企業に参入する以前の「教育機関に所属していた時代の個人の意識・行動」と、「参入後に担うキャリアや組織行動」の二項関係を探求したと、中原氏は研究の先進性を主張する。

清上氏は、職業生活や社会生活でも必要な「汎用的技能」を学士力の一環として定めた「学士課程答申」（2008年中教審答申）や米国の国家レポート「学習への関与」（1984年）を引き、「学生の学びと成長の実態や構造」、さらにはトランジションとの関係を明らかにする必要を説く。単に就職できたかどうかではなく、就職後の適応状況を見なければならぬと言っているのである。そのため、氏は、大学生調査のほか、2007年から追跡調査を含めて3年ごとに25歳から39歳の職業人3000人を対象にインターネット調査を行った。質問項目は、高校・大学での学習生活、

キャリア意識等と、職場での仕事の仕方についてである。調査結果からは、とくに大学1・2年生時におけるキャリア意識及び自主学習や主体的な学習態度が組織への適応に結びつくことが明らかになった。クラブ・サークル活動やアルバイトによる「豊かな人間関係」については、「良好な友達づきあい」以上の質が求められる、異質な他者からの影響が大きいことが示唆された。なお、「勉学第一」とした者は良い結果にならなかった。

これらは、教師が直感的には感じてきたことではないか。生徒の生涯の充実を考えた教育、学校から社会の組織への移行と適応を支援する教育を行うためには、これらのデータは示唆に富むと考える。

（聖徳大学教授・西村美東士）

**活躍する組織人の探究**  
大学から企業へのトランジション

中原淳、清上慎一 編  
3888円 東京大学出版会  
☎03-6407-1069

**BOOK**

2.16. 気合と絆と話術重視よりも上のレベルとは何か

ヤンキーは、今や、学校を荒らす不良ではない。青年期精神病理学専門の斎藤氏は、今のヤンキーについて、「高尚な芸術」に対するバッドセンス、「気合い」や「絆」といった理念のもと、家族や仲間を大切にすると文化であると述べる。コミュニケーションも、お笑い芸人のように達者で、なぜか自信をもって生きている。

対談のなかで、氏は、各地の学校で行われているよさこいソーランなどのヤンキー性を指摘し、また、スバルタ教育、金八先生やヤンキー先生、「GTO」や「ごくせん」などのメディアによる反知性主義の流れを指摘する。「理屈をこねていてもしょうがない」「とにかく真心と誠実さで当たっていけば人は変わる」として「理論は熱の前に敗れ去る」という前提があるというのだ。

それでも、氏は、非行はともかくヤンキー性は更生させる必要はないという。ヤンキーを突き詰めていくと、絆や協調性に傾き、まとまりをつくるのに役立つという。たしかに、現実社会を主観的にうまく生きるには良い方法かもしれない。しかし、氏は、同時に、公共概念とセツトで「個人主義」を再インストールする必要がある。ヒップホップの裏には黒人の歴史があり、よさこいの裏にはまちづくりがある。また、ヤンキーになれない一部の生徒とも共生させなければいけない。精神医療としてはともかく、教育においては、公共を担う者の育成のために、これらの「科学的な見方・考え方」や自他との対話の方法論を彼らに教える役割がある。そのことよって、彼らは、より根拠ある自信を持つことができるといえよう。

（聖徳大学教授・西村美東士）

**ヤンキー化する日本**

斎藤環 著  
864円 角川Oneテーマ21  
☎03-3238-8521

**BOOK**

2.17. 「多元的自己」をどうとらえるか

教育は若者の「自分探しの旅」を支援（1996年中教審）し、彼らのアイデンティティ（自己同一性）の確立をめざす。しかし、浅野氏は、自らの青少年研究会の調査データ等に基づき、状況に応じて変化する「多元的自己」の拡大の事実を示す。その上で、これを従来の知見のように問題視するのではなく、多元的自己であっても、より生きやすい生き方や社会のために生かすことこそ重要という。

「ゆとり教育」でいわれる「個性」については、学力低下批判の嵐に出合い、成績の良い子は「能力を徹底的に磨くこと」、良くない子は「成績競争から降りること」の二重の意味を持つようになったと浅野氏は指摘する。その上で、「自己の多元化は、一つの個性への過度の依存によるリスクを低減させる」と、両方の若者に手を差し伸べようとする。

評者も、生徒の現在の個性を狭く固定的に捉えるとしたら、

教師にも生徒にもよくないと考える。ごちんまりとまとまってしまうのでは、望ましい統合とは呼べないだろう。たくさんの個性の「かけら」は、多様な状況において、多様な箇所を光らせたらし、成長させていきたい。

また、生徒に友達感覚で接してもらおうとする教師がいるとしたら、それは現実的ではないといえる。むしろ、多様な友達と接するときの「多元的自己」とは異なる「支援者に対する作法」を学ばせたい。異議申立もあってよいだろう。そうすれば、「多元的自己」を説明する「統合的自己」の確立も可能になるかもしれない。教育においては、このようにして、生徒の自己内対話を深め、「自分とは何か」の追究を支援すべきと考える。

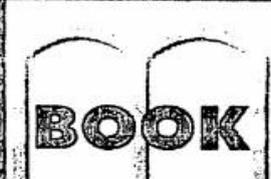
（聖徳大学教授・西村美東士）



**若者とは誰か**  
アイデンティティの30年

**「若者」とは誰か**  
アイデンティティの30年

浅野智彦 著  
1575円 河出書房新社  
☎03-3404-1201



2.18. 途方もない時間の無駄遣いを避けて、能動的学習へ転換させる

筆者のカーン氏の創設した「カーンアカデミー」（教育ウェブサイト）は、「質の高い教育を、無料で、世界中の全ての人に提供」しようとする。サイトには、数学、科学、経済、フィナンス、歴史、美術などのレッスンビデオが4千本以上並ぶ。

カーン氏は、「ほどほどの知識がある、聞き分けが良くて標準的な市民、労働者をつくりだす」プロイセン型モデルの学校に対して、「家では講義、学校では宿題」という「反転」モデルを提示する。個人のペースに合わせて、100%理解してから次の単元に進む。落ちこぼれはない。

MIT（米国マサチューセッツ工科大学）に入学したカーン氏は、周りのみんなの頭の良さにおじけづく。しかし、「途方もない時間の無駄」である教室の講義を受動的に学ぶ学生を

見て、そういう授業をサポート、本当に役立つ授業を受けるなどの「能動的学習」をすることによって、結局、彼らの2倍近い講座を取得することができたという。われわれは、YouTubeで検索して、「カーンアカデミー」の内容をつかんでおく必要がある。しかし、それ以上に、カーン氏の学校教育への問題提起を真摯（しんし）に受け止めるべきである。カーン氏は、生徒の時に「テストを受けて次に進みたい」と学校側に申し出たところ、「そんなことを認めたら全員に認めなきゃいけません」と拒否されたのである。学校側の事情はよく分かる。だが、同時に、個人の状況に合わせて学習を支援しなければならぬことを忘れてはならない。

過去の遠隔教育は、カーン氏が批判するような受動的な一方向授業の象徴であった。しかし、ネットの持つ自己選択性、進捗自由度、双方向性は、これを逆転させようとしている。

（聖徳大学教授・西村美東士）



**世界ひとつの教室**  
「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション

**世界はひとつの教室**  
「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション

サルマン・カーン 著、三木俊哉 訳  
1680円 ダイアモンド社  
☎03-5778-7200

2.19. 若者の地元志向は手放しでは喜べない

石黒氏らは、弘前大学雇用政策研究センターが行った東北地方の若者の東京圏への移動に関する調査結果などを基に、次の通り指摘する。

収入面では、利益を得るのは高学歴者に偏っており、地域間移動の経済的コストをクリアできる「恵まれた環境」に生まれた者が「恵まれた立場」を手に入れることができる。

人間関係では、東京圏に近い世代や年長の親族、既存の友人がいる。新卒採用時に県の出身者枠を設けている企業の寮に入れば、同じ高校出身の先輩が何人もいる。こうした口—カル・トラック（水路付け）により移動先が集中している東京圏と宮城県以外で就職したとき、むしろ孤立した状況に置かれると指摘する。

進路指導に当って、「個性化の時代なのだから、生徒一人一人が各地の就職先、進学先に自己選択で飛び立っていくことが望ましい」とはいえないのかもしれない。

「東京」に出る若者たち  
仕事・社会関係・地域間格差

石黒格、李永俊、杉浦裕晃、山口恵子 著  
3150円 ミネルヴァ書房  
☎075-581-0296

なお、東京圏の大学に進学した者については、出身地で形成した人間関係の減少を、趣味ネットワークの拡大により補うという特徴も興味深い。そのほか、青森県から東京圏に出た高卒の若者に対するインタビュー結果から、労働現場が厳しく、仲間が次々と辞めて青森県に戻っていく中で残る者の苦悩が示される。逆に大卒で比較的高いスキルを持つ青森県出身者が、東京圏で生業としていく過程も示される。

これらの調査が行われたのは、東日本大震災の1カ月前であった。しかし、「高い能力を要求する職業も、高度な教育の機会も、大都市に集中」している現状に対して、地域間格差の是正と教育機会均等の在り方を提唱する本書の意義は、むしろ高まっているといえよう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

BOOK

2.20. 地域のななめの関係によって、社会で幸せに生きられる子どもを育てる

筆者の明石氏は橋下大阪市長の言葉、「僕は学校で教わった勉強なんて一つもない」を引き、(国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(平成22年)の5千人の成人を対象としたバックデータを使って、学校外の体験活動の意義と必要性、そこで身に付く力、必要な体験活動の内容などについて論ずる。

学校教育では、いったい何ができるのか。平成20年中央教育審議会答申のいう体験活動の進め方において、特に自己との対話や思考の外在化(文章化)などの意図的・計画的促進については、むしろ学校教育の出番ではないかと評者は考える。

しかし、明石氏は終章で「成功の秘訣はナナメの関係」とわれわれに追い打ちを掛ける。文

科省によれば、体験活動により、学校が地域社会と協同し、学校内外で子どもが多くの人と接する機会を増やすことを目指している。親や教師、子ども同士は含まれない。教師が子どもとナナメの関係であろうとしたら、それは職務逸脱に近い行為だ。地域人材の活用などの方策が求められるのは当然であるが、それ以上に「純粹な学校内教育」において、教師が「タテの関係」の中に「ナナメの関係」による教育力を取り入れられないものか。われわれは、細かいところに責任を持たなくてよい地域のオジサン、オバサンたちとは違う。日々、現象面ばかりに追い回され、余裕のあるナナメの関係が持ちにくい。服装や髪型の問題だけに終始するのではなく、より本質的に、彼らの深いところと出合えるような対話をしてみたいものだ。

(聖徳大学教授・西村美東士)

ガリ勉じゃなかった人はなぜ高学歴・高収入で異性にモテるのか

明石要一 著  
880円 講談社プラスアルファ新書  
☎03-3945-1111

ガリ勉じゃなかった人はなぜ高学歴・高収入で異性にモテるのか

BOOK



3. その他の追加テーマ（西村美東士『週刊教育資料』書評より）

3.1. 新しい共有の文化を作り出すための重複型アイデンティティ



川崎氏は、「宇宙船地球号」の乗組員としての人類は、互いにかかわりを持ちながら、生活せざるを得ない状況になったとし、欧米近代の基本的価値観である「自由と独立」を守りつつ、新しい共有の文化を作り出すという課題を提示する。そして、そのためには、多層性を確保しつつ、全体としては寛容な多層性を保有するという「重複型アイデンティティ」が重要だという。これは、本書全体のトーンとしての多元的自己論（状況対応型自分らしさ）と、過去の一元的アイデンティティ論へのアンチテーゼとしての文脈とつながる主張である。

また、若者の幸福感が極端に高いという実態については次のように述べる。幸せを感じるものになるインフラが大きく変わって、自己の欲求をいろいろと

満たしながら、操作的な対人関係を築き、概ね「ほどほどの満足感」に浸ってきた。ただし、背後には、極めて激しい競争と過酷で残酷な競争がある。現代青年文化は、この厳しい現実に対応する最初の本格的な対応様式を築こうとしている。

評者は考える。われわれはアイデンティティを自己同一性ととらえ、その確立を若者の自立にとつての不変の価値として教育活動を進めてきた。だが、若者が「重複型アイデンティティ」によって現実適応しようとしているとするならば、そのような自己同一性を押し付けられることは、考えてみれば残酷な話だ。価値の伝承と創造を担う教育だからこそ、実態誤認の安易な「若者論」に振り回されることなく、同書のような知見を取り入れたり、教育学を対抗させたりしながら、若者の自立支援の方策を見出さなければならぬ。

（聖徳大学教授・西村美東士）



### 〈若者〉の溶解

**川崎賢一、浅野智彦 編著**  
3456円 勁草書房  
☎03-3814-6861

3.2. 限られたコミュニティから新たな社会のつながりを



若者には無理に共感するのではなく、かといって頭ごなしに否定もしない大人の理想的なスタンスを、「ズレ愛スタンス」と定義する。その内容は、①「誰かが」ではなく「私が」で向き合う、②「集団」ではなく「個」に向き合う、③「上から」ではなく「尊重」、④「Why なき命令」ではなく「Why の共有」、

以上の観点から、本書では、若者に無理に共感するのではなく、かといって頭ごなしに否定もしない大人の理想的なスタンスを、「ズレ愛スタンス」と定義する。その内容は、①「誰かが」ではなく「私が」で向き合う、②「集団」ではなく「個」に向き合う、③「上から」ではなく「尊重」、④「Why なき命令」ではなく「Why の共有」、

若者少数社会では、「量の影響力」が少ないことを理由に若者離れに陥っている。そのため、若者特有の感性やアイデアといった「質の影響」を社会に還元できずにいる。「わかってもらえていない」という安心感や信頼があれば、若者の行動は変わるのに、世の中にあふれる若者論のほとんどが、若者からすれば「わかってない」ととらえられている。

⑤「どちらの論理」ではなく「共通の論理」の五つだと言つ。若者のコミュニケーションについては、次のように述べる。サークルという「内輪」に閉じてしまうことによって、「ほかのことに興味が持てない」「めんどくさい」といった外の社会に対する排他性につながってしまう。さらに、限られたコミュニティであることが、個人にとつての生きづらさにつながる。評者の所属する青少年研究会では、この傾向を「みんなぼっち」と呼んでいる。本書では、サークルの持つWEの居心地の良さをそのままに保ちつつ、新たな社会とのつながりの形と、人とのほどよい距離感をとして保てる形を両立したサークル用スマホアプリを開発したと言う。教育関係者としては、「みんなぼっち」の若者に対して、社会的視野を拡大させるための「ズレ愛」の方策を考える必要がある。

（聖徳大学教授・西村美東士）



### 若者離れ

電通が考える未来のためのコミュニケーション術

**電通若者研究部 編**  
吉田将英、奈木れい、小木真、佐藤瞳 著  
1620円 エムティエヌコーポレーション  
☎03-4334-2900

13

3.3. 「困った子」は、本人自身が困っている

## ブック

本書では、素顔を見せないマスク依存症に始まり、薬物依存、ネットいじめ、教員を含むスクールカースト、性非行、性同一性障害への差別意識、親からの虐待と愛着障害などの問題を、保健室の現場から書き上げる。そして養護教諭は「困った子は、本人自身が困っている」とらえるが、他の教諭はその問題に気づきにくいという。このようなことから、貧困の連鎖を断ち切るための学校の役割についてもはやメディアからも見限られている現状を指摘し、保健室を「子どもを救う最前線」にしようとする。

秋山氏は「どうして子どもたちは、保健室の中だとこんなに自然体になるのか」と提起し、成績で評価されないから、否定されないからという理由以前に、養護教諭に、取り繕うような



こるがないことを指摘する。心がないことは言わない、わからないことはわからないと認め、子どもだからと下に見ることなく、一人の人間として尊重する。相談に対しては「どうしたの」と耳を傾け、熱っぽいと言われれば「どれどれ」と額に手で触れ、五感と神経をフル稼働して向き合う。

筆者は考える。一般の教諭にとっても、保健室でのこのような「自然な対応」は見習うべきところが多々ある。ただ、教室が保健室のようになればよいという話ではあるまい。

**ルポ 保健室**  
子どもの貧困・虐待・性のリアル

秋山千佳 著  
842円 朝日新書  
☎03-5541-8757

もちろん、本書に登場する「保健室に入ろうとする生徒を追い返すベテラン教師」などは何とかしたい。しかし、より本質的には、「居場所を求める声なきSOS」に対して、保健室のほか、図書室などの「居場所」と、そこでの専門職の意義と連携の必要性を認識すべきということなのだろう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

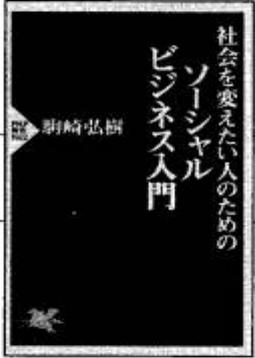
筆者は考える。一般の教諭にとっても、保健室でのこのような「自然な対応」は見習うべきところが多々ある。ただ、教室が保健室のようになればよいという話ではあるまい。

3.4. ドリームは実現できる、でも、ドリームキラーも必ずいる

## ブック

駒崎氏は「フルタイムでNPOを事業として経営する」ための具体的方法を説く。氏は2004年にNPOフロレンスを設立し、日本初の訪問型病児保育サービスを開始した。10年後に待機児童問題解決のため「おうち保育園」を創設し、これが後に「小規模認可保育所」として国策に採用された。視察を受け入れ、「肝」と費用対効果を官僚に伝えて政策化につなげる

ことよって「国に事業をバックしてもらい、社会変革を行う」ことかできるというのだ。また、「現実はずっと厳しいよ」と批判する「ドリームキラー」に対しては、「貴重な意見ありがとう。でもまあ、俺はやるけどね」としてスルーするとともに、「割くらは「よい批判」があるので、「なんで?」と聞き返し、彼らのライフスタイルを推察し、



ターゲットとすべき人物像を発見する。まさに「生きる力」の見本といえよう。

また、このような方法をネット上でも公開している。たとえば、「本格的な準備をしよう(情報編)」では、グーグルなどの活用により無料でチーム内外への情報発信をする手段を紹介する。ネット社会において安価な発信手段が拡大していることを、教員も知っておく必要がある。

本書が提唱する「新しい社会貢献」について、筆者は次のように考える。このような手の届く

**社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門**

駒崎弘樹 著  
886円 PHP新書  
☎03-3520-9611

範囲で社会貢献したいという若者の志を大切に受け止めたい。だが、もう一方で、過去の学生は「儲け主義はイヤ」という理由で教員や公務員を目指していたことを思い起こす(今の学生は安定のためだが)。今後は、職業全般が社会貢献につながるという実態と認識を広げていきたいものだ。

(聖徳大学教授・西村美東士)

を、教員も知っておく必要がある。

本書が提唱する「新しい社会貢献」について、筆者は次のように考える。このような手の届く

3.5. みみっちいコミュカよりも、もっと簡単な社会に必要なコミュカを

ブック

本書は、時代の空気を読み解く55個の言葉をとりあげ、その起源や由来、流通の過程、類語との関係等を解説する。その領域は、若者・世代、メディア・ネット、恋愛・結婚・家族、仕事、つながり、食・健康・環境・災害の七つである。

各項目の副題が端的で興味深い。「若者・世代」については次のとおりである。アラサーは女ざかりからの逃走、オタクは成熟社会のロールモデル、キャラは「空気」の中を生き抜く作法、ゆとり世代は「自己管理」を他者に管理される矛盾。ほかでも、炎上はネット・イベント、ソーシャルメディアは社交と孤独の世界、婚活は自由化の震、ワーク・ライフ・バランスは一生の支援そして介入、居場所はリスク化する社会の抛り所、新typeうつは深まる承認不安の果て



**今どきコトバ事情**  
現代社会学単語帳

井上俊、永井良和 編著  
2160円 ミネルヴァ書房  
☎075-581-5191

ただ、本書全体を通して、コミュカ（コミュニケーション能力）を「正体のない能力」ととらえ、「教育不能」とする論調が強い点が、教育の視点からは疑問が残る。グループ内でコミュカ不足と思われないよう努力する若者の姿はたしかに切ない。だが、若者や社会の現場においては、コミュカを分解すれば「正体のある能力」として理解されるはずである。これを構造化したものがカリキュラムにほかならない。と

かく批判される「ゆとり世代」についても、既存の学問体系に頼りすぎて、彼らが必要としている「コミュカ」に目が向いていなかったという教育側の責任もあるだろう。その上で、ある意味難しい「身内」とのコミュカとは異なる、ある意味シンプルな「社会」の現場に必要なコミュカに、生徒の目を向けさせることも考えたい。

（聖徳大学教授・西村美東士）

3.6. 正解のわからない世界での、社会化と個性的発達と学問の系統性にに基づく教育理念

ブック

本書は、次期学習指導要領改訂に向けた議論の参考に使われることになっている。本書の背景には、「誰も正解がわからない世界で、みんなが少しずつ考えや知恵を持ち寄って、答えを作り出し、それを現実にも適用した結果も見守りながら、より良い答えを求めよう」という、「持続可能な社会」に向けた時代認識がある。大人も子供も一人一人が自分なりの考えを持って、人と対話し、協働しながら、新しい考えを創造する力が必要というのだ。

本書は、教科、道徳・特活、体育の「分業モデル」を超えた「知・徳・体」や、「まずは知識習得」といった「分離・段階モデル」を超えた「学力三要素」などを一体化する授業デザインを提案する。また、「社会化と個性的発達と学問の系統性」という三



**資質・能力 [理論編]**  
「知」「徳」「体」を一体化させる授業とは？

国立教育政策研究所 編  
2160円 東洋館出版社  
☎03-3823-9205

つの教育理念に基づく目標の融合」など、たとえアクティブラーニングにおいても、目標、内容方法、評価という教育の根本を貫くための理論が示されている。評者は、社会的協働を念頭に入れない競争主義に偏った過去の能力主義教育と、その批判の繰り返しは不毛であったと考えられている。その意味で、個人の充実とともに、家庭、職業、地域生活を通して社会形成者としても充実した人生を送るための必要能力を、達成目標として理論化しようとする本書の存在価値は大きい。ただし、変化しようのないはずの「資質」を、本書では「能力」とつねにセットで扱っている点については、個人的には気になる。資質は良くも悪くも、その人らしさそのものではないのか。青少年一人一人が、個を社会に生かして、充実した生涯を送るための能力構築に焦点化した議論を望みたい。

（聖徳大学教授・西村美東士）

3.7. 「公=大人」を目指す教育なら、学級立て直しは可能

**ブック**

親の気を引く学校バッシングの報道があふれるなか、菊池氏は、「教室は社会の縮図」として、学校教育、家庭教育、社会教育、社会教育の全体に対して、問題を指摘する。親は学校へのリスベクトを子に伝えず、また、学校に公に出す意見の出し方について知らない。地域は、負担やリスクを負ってでも「子ども会」などを運営したり、気になる家庭に「大丈夫ですか」と声掛けしたりしづらくなった。子どもたちの「よくなりたいたい」という感情は、素では一致しているものの、その先の感情はバラバラ。学級単位で「皆が一緒」と考える時代は終わった。そのなかで氏は、「ひとりごとが美しい」「群れるな、集団になれ」として、集団行動の仕方を子どもたちに示す。

菊池氏は、子どもたちが言葉

で自分の考えを伝え、相手の考えを聞けるようになるためのコミュニケーション教育を実践してきた。「ほめ言葉のシャワー」では、その日の日直のいいところをクラスの子たちが思い思いに褒める。「成長ノート」では、子どもが自分自身の成長を知るために、教師と一対一で対話する1年間成長を続けていけば、子どもは抽象的な難しいテーマにも答えられるようになり、それが学級でも認められることによって、個が強い集団を作り、「公=大人」を目指すと言った。

評者は、次のように考える。個人化、流動化のなかで、従来の価値を伝え、新たな価値を創り出す教育の役割が軽視されつつある。そういう今日、個人の成長に焦点を当て、目標を立てさせ、自問自答させ、「強い言葉」を持たせ、「公」の価値を伝えようとする氏の営みは、社会的に大きな価値をもつと言えよう。

(聖徳大学教授・西村美東士)



**甦る教室**  
学級崩壊立て直し請負人

菊池省三、吉崎エイジニヨ 著  
529円 新潮文庫  
☎03-3266-5111

3.8. 積み上げ型の単位ではなく、アウトカムに向けて密接に関連しあう科目群へ

**ブック**

本書は、各評価機構における大学評価のポイントを解説したのち、大学の質保証に関する論考を行う。ここでは、中等教育までに追求されてきた「確かな学力」の裏付けを伴う「生きる力」を一層発展させ、生涯にわたって必要になる力を培うよう求められるという。

「ラーニング・アウトカム(学修成果)については、日本では「知識、スキル、態度」のことを指しているが、米国ではアカデミックなものだけでなく、「4年間で学ぶ学術的、社会的、人間的な素養を包括」するものとし、コネチカット大学の「アウトカム・ピラミッド」の例を紹介する。そこでは、最上位の建学の精神が、多様、複雑になって、最底辺の1回ごとの授業にいきわたり、目的と学修成果が明確にされ、

本書は、各評価機構における大学評価のポイントを解説したのち、大学の質保証に関する論考を行う。ここでは、中等教育までに追求されてきた「確かな学力」の裏付けを伴う「生きる力」を一層発展させ、生涯にわたって必要になる力を培うよう求められるという。

科目群が密接に関連し合う「科目順次性」が実現する。日本では、一般教育科目、専門科目を含め、明確なアウトカムが示されておらず、学生たちは単位を積み上げて卒業要件を目指す傾向があるという。

本書巻末の座談会では、教職員がこのような大学改革に対して、研究時間が奪われるなどの「被害者意識」に染まらずに協力するよう求められている。たしかに、大学教員の教育能力開発の取り組みが本格化する今日、このような「被害者意識」は、裏で蔓延しているような気がする。しかし、評者は次のように感じている。研究はできるけど、教育はできない教員など、実際にいるのか。研究も教育もできるか、どちらもできないかのどちらかなのではないか。繁忙感のみに終わる空しい時間を削ぎ落として、研究と教育の両方の質の向上に時間をかけるようにすることが必要だ。

(聖徳大学教授・西村美東士)



**大学の質保証とは何か**

早田幸政 著  
3240円 エイデル研究所  
☎03-3234-4641

3.9. 目標と方法を意識した真の対話教育を

**ブック**

宇佐美氏は、「ハーバード白熱教室」におけるマイケル・サンデル氏の対話方法を批判し、これに問題意識を感じない教育者を憂え、本書で教育学の存在意義を示そうとする。発問とは「この問い以外の問いは考えるな」と指示することであり、その正当性はあるのかと言っただ。他方、「一方的に、予め用意した内容を音声化する」講義という方法についても、「不合理で無意義な教育方法」と言う。「話して聞かせるくらいならば、その内容を各自に読ませればいい」と言う。「なぜ、この目標なのか」「この目標だと、なぜこの教材、方法なのか」という自覚と文章化を、氏は教師に求める。

池田氏は、サンデル氏の対話方法を、①口頭でのやりとりで限定されている。②学生には質問させない。③学生に考える時間を与えない。④何を考え、何を考えないかの制約条件は氏が一方的に決めるとして、「まるで尋問」と批判する。そして、①紙に書いて示す。②質問させる。③考える時間を十分に与える。④説明責任さえ果たせばあとは自由。という自己の授業方法を対峙させる。

評者は、次のように考える。対話はソクラテス以来の教育の原点である。しかし、それは「やらせ」による賑やかな見せ物としてではなく、生徒間協働を進め、ものの見方を考え方の枠組みを拡大させるためにある。ここでは、生徒の学習と省察を尊重することが重要になる。また、ワークシoppのなかでも、個人のカード書き作業のなかに沈黙者の自己内対話機能が見出される。目標と進行、評価基準に基づいて、あの手この手の教育方法を組み合わせることこそ必要なのだろう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

**対話の害**

宇佐美 寛  
池田久美子

宇佐美寛、池田久美子  
1620円 さくら社  
☎03-6272-6715

3.10. 双方向ライブ感覚のエンタテインメントを楽しむ教育のプロ

**ブック**

精選した内容をびっしりと詰め込んで、①導入、②展開、③まとめで進行させる。プロの教師の授業とはそういうものだという誤解が、教師を苦しめてきたのではないか。これに対して、藤川氏は、①予告、②ライブ、③余韻で授業を構成するよう勧める。そして、教師がすべてを背負い込むのではなく、子どもたちを没入させるエンタテインメントを活かした仕組みをつくり、余裕をもって日々の授業に取り組めるようにしようという。

そのため、次の手法が盛り沢山に紹介される。発問における「ほにゃらら」による回答制約、お笑い芸人の「おもてなし精神」などのMC力の応用、伏線の張り方と「回収」、太字のフリックによる子ども意見の見え易化、承認による利得構造の実現、

少意見を出させるための抽選指名、説明不要のアフォードンによるシート・板書、認知リソースの負荷を下げるカンペ・揭示、客に受け入れさせてしまう「フットインザドア」「ローボール」などのセールステクニクスの応用、プレゼンの動画記録による自己点検の促進。

また、「社会とつながる学校教育」の章では、ゴールとルールを定めて、地域イベントのゲームを作らせる「ゲームフィクション」の事例が紹介される。ICTやSNSを活用することによって、教師は楽になり、魂が解放されるといふのだ。評者も、個人のペースで学習できる教材が簡単に入手できる現在においては、「しやりき」なプロではなく、このような双方向ライブ感覚のエンタテインメントを楽しむプロによってこそ、意欲向上や方法論獲得を支援する「ゆとり教育」も実現するのだと感じた。

(聖徳大学教授・西村美東士)

**授業づくりエンタテインメント!**  
メディアの手法を活かした15の冒険



藤川大祐 著  
1944円 学事出版  
☎03-3255-5471

3.11. 適応重視の社会参加から、地域の多様な担い手の育成への転換

今日の「〇〇カ」ブームのなか、本書は、市民教育の視点から次のように問題を投げかける。「能力による選抜」の何があやしいのか。「職業のための教育」だけでよいのか。公教育は「公共」として何をすべきか。

「教育市場は規制がないので、怪しげな学校とウェブサイトがしきりに現れて、ぼろもうけをしては消えていく。公共の教育機関は（これと張り合い）専門職の狭い技能教育に追われる」（グラブラ、2004年）。

広田氏はこの論を引き、次の悪循環を指摘する。よりよい職業への「パスポート」としての教育によって、個々人は競争の主体として個人化され、他者への関心や広い世界とのつながりを失い、民主主義、市民社会が空洞化する。他方、2010年「子ども・若者ビジョン」（内閣府）では、従来の「適応重視の社会参加」から、「地域における多様な担い手の育成」への転換な

今日、「〇〇カ」ブームのなか、本書は、市民教育の視点から次のように問題を投げかける。「能力による選抜」の何があやしいのか。「職業のための教育」だけでよいのか。公教育は「公共」として何をすべきか。

「教育市場は規制がないので、怪しげな学校とウェブサイトがしきりに現れて、ぼろもうけをしては消えていく。公共の教育機関は（これと張り合い）専門職の狭い技能教育に追われる」（グラブラ、2004年）。

広田氏はこの論を引き、次の悪循環を指摘する。よりよい職業への「パスポート」としての教育によって、個々人は競争の主体として個人化され、他者への関心や広い世界とのつながりを失い、民主主義、市民社会が空洞化する。他方、2010年「子ども・若者ビジョン」（内閣府）では、従来の「適応重視の社会参加」から、「地域における多様な担い手の育成」への転換な



**教育は何をなすべきか**  
能力・職業・市民

広田照幸 著  
2592円 岩波書店  
☎03-5210-4000

ど、社会の能動的形形成者へのための支援を掲げた氏はこれを支持する。

評者は次のように考える。キャリア教育も「地域における多様な担い手の育成」の一環である。ただし、職業の場だけでなく、家庭、地域での個人の生涯の充実という広い視野で行うことと、受験勉強特有の個人完結型の競争から、社会開放型の「学び合い支え合い」へと転換させることが必要なのである。実際の職場でも、会社より顧客の満足、競争よりコラボ、そして地域社会の一員としての役割意識が求められる。それを、抽象的にではなく、職場のリアルな課題と状況から臨牀的に体得させる必要がある。このようにして、キャリア教育を能動的形形成者への「パスポート」にしたい。

（聖徳大学教授・西村美東士）



3.12. 女子力男子は時代のパイオニア、偏見を捨てて、個々人の選択を尊重せよ

原田氏は、マーケティングの視点から「若者の消費離れ」説を疑えと述べる。最近の若年男性が「元気がない」「なよなよして」と言われる原因は、「女子力」を身につけた急激な変化の結果だという。

もはや「男らしく」という言葉は通用せず、思い思いに料理、美容やダイエツトに関心を持ち、流行にも敏感、そんな「女子力男子」が台頭しており、女子からもモテている。そして、この動向は、わが国の中高年やアジアの国々にも広まるだろうという。氏は、「自己満足／他者の目を意識」「ライフスタイル／美」の2軸による4象限で女子力男子を分類する。とくに「ライフスタイル×自己満足」については、女子会に溶け込んでトークできるなどの男子たちで、企業にとって市場拡大の可能性が大

原田氏は、マーケティングの視点から「若者の消費離れ」説を疑えと述べる。最近の若年男性が「元気がない」「なよなよして」と言われる原因は、「女子力」を身につけた急激な変化の結果だという。

もはや「男らしく」という言葉は通用せず、思い思いに料理、美容やダイエツトに関心を持ち、流行にも敏感、そんな「女子力男子」が台頭しており、女子からもモテている。そして、この動向は、わが国の中高年やアジアの国々にも広まるだろうという。氏は、「自己満足／他者の目を意識」「ライフスタイル／美」の2軸による4象限で女子力男子を分類する。とくに「ライフスタイル×自己満足」については、女子会に溶け込んでトークできるなどの男子たちで、企業にとって市場拡大の可能性が大



**女子力男子**  
女子力を身につけた男子が新しい市場を創り出す

原田曜平 著  
1404円 宝島社  
☎03-3239-0181

きいといつ。後書きでは、次のように述べる。「減少する労働人口を確保するため、とにかく女性を男性と同じように働かせる」ということだけを目標とする右へならぬの画一的な発想や号令ではなく、個々人が自分の本当の幸せを見つめ、それに沿った働き方を様々なチョイスの中から選択できる。専業主婦も専業主夫も、バリバリのキャリア女子も男子もいる。今、日本社会に最も必要なことは、このようにして、すべての当たり前前から解放されることという。学校教育においても、マーケティングの視点に習い、このような若者の実態や変化に対応して進める必要があるだろう。同時に、評者は、彼らの社会生活の充実のため、既存の価値を伝承するとともに、セクシヤリティや職業に関する望ましい価値を、今の若者とともに創造する必要があると考える。

（聖徳大学教授・西村美東士）

3.13. 女子力男子は時代のパイオニア、偏見を捨てて、個々人の選択を尊重する

井上氏は、現代文化を都市文化、消費文化、情報文化としてとらえる。都市文化とは、万博に象徴されるような「見せ物」の文化であり、「欲望喚起装置」として消費文化を形成してきた。百貨店のような魅力的な「見せ物空間」は「見せかけ」であるとともに、流行に遅れたくないと、差をつけたいとかの「見せかけ」への同調と差異を消費者に呼び起こす。そのため情報操作も欠かせない。政府や企業だけでなく、われわれ自身が、崩れつつある慣例的な社交パターンに頼らず、意識的に「見せかけ」(キャラ)を演じて、自己を「情報化」し、他者を傷つけないように社会生活を成立させなければならないという。

井上氏は、そこで生まれる自己と他者と世界の物語が、シニカルな「裏話」も含めて、社会的現実を「意味の秩序」として成立させると評価しつつ、次のように問題を提起する。「何が疑似か」という基準が立てにく

なってきた今日では、見せかけが「どういう条件のもとで」通用するのかが問題である。「好みの物語を編集できる」としても、それをそのまま現実化できるわけではない。

本書では、この視点のもとに、各著者が、政府推進によるポツポツとプアルチャー、人助けと「心理学化」、スポーツイベント、ファッション、観光、恋愛などにおける現代文化の権力性、自己疎外、不自由さ、

全訂新版 現代文化を学ぶ人のために

井上俊 編  
2160円 世界思想社  
☎075-721-6500

現代文化  
を学ぶ人のために  
井上俊 編

BOOK

3.14. 仕事・家族・教育がうまくまわらない社会における職業意識のあり方

著者は、戦後の転機として、石油危機とバブル崩壊を挙げ、とくに後者については、完全失業者の増大など、日本経済は「底が抜けた状態」になったとする。それ以前の団塊世代などの「戦後日本型循環モデル」においては、仕事・家族・教育という三つの社会領域が結合され、父の賃金→家族→子への教育費→新規労働力というかたちで、社会が文字通り「まわっていた」。

1995年の日経連「新時代の日本的経営は、多様な形態の非正社員の活用による事業の維持の姿勢に「お墨付き」を与えた。これ以降、「家族を食わず」に足るだけの収入が得られない男性の非婚化が進んだという。また、余裕層の中に、不透明社会に対して過剰なほど教育熱心な親が現れた。40人教室に、塾で3学年も先のことを

著者は、次のとおり新しい社会モデルを提示する。「組織の一人としての身分を与えられる」メンバーシップ型から、「一定の熟練や専門性に基づいて遂行される、ひとまとまりの行為」としてのジョブ型正社員への移行。将来に向かって生きていくための「中間的就労」などを支援する「アクティベーション」。そして、学校の役割を、「保護者や地域に開かれた学校」「家族へのケアの窓口」と位置づける。

「社会がうまくまわらなくなった現在、どういった職業意識をもった子どもたちを育てればよいのか。」うまくまわっていた「団塊世代とは異なる考え方が必要なのだろう。」

筆者は、次のとおり新しい社会モデルを提示する。「組織の一人としての身分を与えられる」メンバーシップ型から、「一定の熟練や専門性に基づいて遂行される、ひとまとまりの行為」としてのジョブ型正社員への移行。将来に向かって生きていくための「中間的就労」などを支援する「アクティベーション」。そして、学校の役割を、「保護者や地域に開かれた学校」「家族へのケアの窓口」と位置づける。

社会を結びなおす  
教育・仕事・家族の連携へ

本田 由紀 著  
562円 岩波ブックレット  
☎03-5210-4000

社会を結びなおす  
教育・仕事・家族の連携へ

BOOK

3.15. プライドと居場所を求める若者への対応

**ブック**

「普通の少女」や「ルールに従順なタイプ」などの「扱いやすいタイプ」も登場する。客の性的欲望への対応が苦痛なのは、すべての少女に共通しているが、「わかってくれる大人がいない」という「関係性の貧困」の中で、このような仕事にもプライドを持つとうとする。

スカウトは、個人のタイプやニーズに合わせて、こまめに連絡をし、店につなぐ。店長は、少女の話を聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女について



女子高生の裏社会  
関係性の貧困に生きる少女たち

本書は、親からの虐待や性被害などの心の傷を抱え、「JKお散歩」などの裏社会で働く少女の取材集である。児童相談所や警察については、親に通報されて元の木阿弥になる経緯をしているため敬遠しがちである。

**女子高生の裏社会**  
「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃 著  
821円 光文社新書  
☎03-5395-8289

は、過ぎしやすいルールや客の喜ぶオプシオンを考えさせて、やりがいを持たせる。学習支援や貯金代行も行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。「お前の夢はなんだ」などというワークシヨップも行なう。高校卒業後も、系列の風俗店で働けるよう面倒を見る。

たちを取り巻く「裏社会」は、このような隙間をついて少女たちを取り込んでいく。これらの「居場所」に対抗して、自己を社会に位置付けることのできる自立のための「居場所」を提供する意義は大きい。それは、卒業後の生涯の充実をも視野に入れたものでなければならぬ。

(聖徳大学教授・西村美東士)

評者は考える。  
「みんなを」ではなく、「自分だけを」かまっけてほしいという若者の関係性への渴望は、われわれもよく感じるところだ。教育では、これをそのまま受け入れるわけにはいかな。しかし、少女

評者は考える。  
「みんなを」ではなく、「自分だけを」かまっけてほしいという若者の関係性への渴望は、われわれもよく感じるところだ。教育では、これをそのまま受け入れるわけにはいかな。しかし、少女

3.16. 個人的事象としての学習と協働

「従来の授業では学習内容の説明に授業時間の大半を使うため、個別指導や協調学習など教員や学習者同士の相互作用的な活動に十分な時間を確保することができなかつた」とし、「従来の授業相当分の学習をオンラインで授業前に行うことで、知識の定着や応用力の育成を重視した対面授業の設計が可能になる」と主張する。

本書では、次のようにそのメ



反転授業

本書の監修者山内祐平氏らは、昨年10月、東京大学で「反転学習社会連携講座」を開設した。翌11月、佐賀県武雄市教育委員会は小学校でのICT環境整備による反転授業試行を発表した。現在、全国の教師がSNSを通して、スキルやコンテンツ共有の活動を行っている。

反転授業は一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」を指す。

山内氏らは、

**反転授業**

ジョナサン・バーグマン、アロン・サムズ 著  
上原裕美子 訳、山内祐平、大浦弘樹 監修  
1620円 オデッセイ コミュニケーションズ  
☎03-5293-1888

リットを挙げて  
いる。  
生徒のなじんでいる言語（メディア）で語りかけられる。（生徒会等）多忙な生徒の時間の自己管理を助ける。自己の理解度や学力に応じて進行管理できる。つまりいている生徒を助ける。

生徒と教師及び生徒間の関与を増やせる。教師の生徒理解を深める。学習の個別化をもたらす。教室の透明性を高め、保護者自身の学習や学校への態度が変わる。

評者は、次のことを再認識すべきと考える。生徒「みんな」が同様な学習成果を挙げるといふことはありえない。学習は本質的に「個人的事象」であるのだから。能力別指導が、ICT活用により個人別指導にまで下りてきて、その上で生徒間協働が図られる条件が整いつつあると感ずる。

(聖徳大学教授・西村美東士)

**BOOK**

3.17. コミュニケーションスキルという「偽善」に惑わされるな

「14歳の世渡り」という副題の「使える」精神科の本が文庫化された。

山登氏は、今の「発達障害」を障害として扱う必要のない文化もあることを指摘する。齋藤氏も、引きこもりについて、文化の影響を指摘する。欧米では、成人後に親と同居するのを恥とするが、日本や韓国では、儒教文化の影響が強く、家を継いで親の面倒をみて一人前の大人とみなされる風土があるというのだ。だが、若者の「非社会的」な傾向は問題だという。よっぽどの才能と意志があれば「健康的」に引きこもることができ

るかもしれないが、普通なら、人間関係がなくなると「生きる意味」さえも見えなくなると警告する。対人恐怖、摂食障害、解離、PTSD、人格障害、うつ、統合失調症などについても「14歳の世渡り術」が述べられている。

齋藤氏は、「ナンバーワンよりオンリーワン」や「みんな違ってみんないい」という言葉に



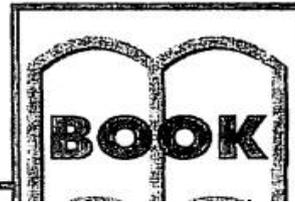
齋藤環、山登敬之 著  
691円 河出文庫  
☎03-3404-1201

世界一やさしい精神科の本

偽善性を感じ、「多様性」とは、人の心の限界や不自由さという壁があつてこそ生まれるものとして主張する。そして、望まれる多様性とは反対に、スクールカースト（生徒間身分制）の格差決定要因が「コミュニケーションスキル」に一本化されていると指摘する。笑いをとるなどの対人操作能力が高いヤンキーが最上層に位置づき、ほかのオタクなどの能力は評価されないというのだ。こういう生徒間の熾烈な生存競争の中で、キャラを演じながらも、カーストの価値観に染まりすぎずに自分を守ることが大切だと助言する。

ヤンキー的な生徒の能動性だけを評価するのではなく、受動的な生徒に対しても、多様な評価基準をもって接することが望まれよう。

(聖徳大学教授・西村美東士)

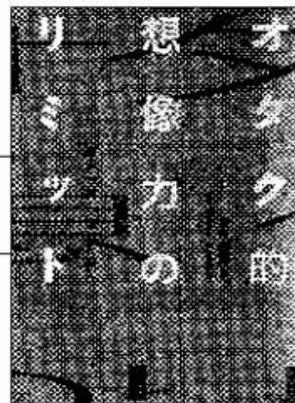


3.18. オタク文化の優位性と「大きな物語」への限界、そして価値伝承の教育の役割

オタク文化がクールジャパンとして脚光を浴びるなか、著者は、興味本位な「オリエンタリズム」を超える正しい理解を求め、コスプレ、鉄道オタク、萌え、格闘ゲーム、腐女子などについて論述する。また、次の文献を収録して著を構成する。「小さな物語をデータベース消費する」とする東浩紀氏の「動物化するポストモダン」、「娯楽の宇宙の中でつながりを求める」とする北田暁大氏の「喘ぐ日本のナシヨナリズム」、「個室が都市空間に延長する」とする森川嘉一郎氏の「趣都(アキハバラ)の誕生」。いずれも、オタク文化に、近代を超えるポストモダンの可能性を見いだそうとするものである。

教育においては、その可能性を受け止めつつ、これまでの「大きな物語」としての歴史学等を彼らに伝えることが求められよう。

オタクの「想像力」について、辻泉氏は「(私自身が)なぜ鉄



宮台真司 監修  
2700円 筑摩書房  
☎048-651-0053

オタク的想像力のリミット  
(歴史・空間・交流)から問う

道オタクなのか」という問いのもとに、敗戦までの「汽車の時代」を「空想の時代」、高度経済成長期の「電車の時代」を「夢想の時代」、低成長教育の「ポスト電車の時代」を「幻想の時代」、現在の「ポスト鉄道

能」により、「オリエンタリズム」の曲解が乗り越えられるのは時間の問題とする。教育においては、オタクへの興味本位な曲解は払拭した上で、先人の蓄積してきた文化・価値を伝承し、それを生徒の内的世界の「文脈」と関連付けさせ、彼らの想像の壁を日々破らせるようにしたい。

(聖徳大学教授・西村美東士)

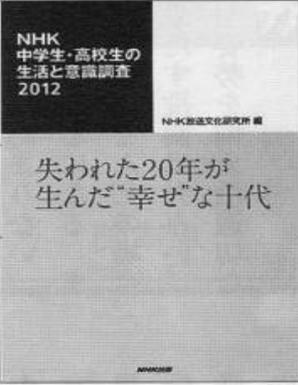


3.19. 過去最高の「幸福率」、親にも反抗しない、親とも仲が良い、この子らを育てるために

自分の十代の頃の授業と自分を思い出して生徒を理解しようとすることは、間違っていない。青年期特有の不変の課題は共通しているからである。しかし同時に、今の十代の変化を見ておく必要がある。この調査は「荒れる学校」が社会問題になった1982年から、87年、92年、02年と行われてきた。

「とても幸せだ」(中学生55%、高校生42%)とする生徒が、この10年で過去最高の増加率を示した。勉強へのモチベーションも向上した。同書で、古市憲寿氏は、ゆとり教育の成果と評価し、「こんなに願い通りにいい子に育っているのに、政治家は教育に対して何をしたいのか」と述べる。同時に、今後「失われた20年」のフリーターたちが親世代になったとき、このようにうまくはいかないと予想している。

古市氏は、「スクールカースト」の低位にあっても「下は下



NHK放送文化研究所 編  
1890円 NHK出版  
☎0570-000-321

で友だちもいるし、そこそこ満足している」と社会学の立場から分析する。しかし、教育学の立場からは、このような「幸せ」に對峙して、「支持的風土の幸せ」を示さなければならぬ。

また、「いい子であるだけでは幸せにはなれない」社会に出ていき、幸せな生涯を過ごすためには、社会のなかで自己発揮するための自我の確立と社会での位置決めを支援する必要がある。

「思い切り暴れ回りたい」を「まったくくない」とする回答が82年19%から、12年69%にまで増加した。親にも反抗せず、仲がよい。80年代に「荒れる学校」で育った教師は、「このような「多数派生徒」の良さを生かしつつ、小さくまとまらせずに育てることを考えなければならぬ。」

(聖徳大学教授・西村美東士)



3.20. 一見遊びのように見えるワークショップにも目標設定、評価、改善のためのPDCAは必要

筆者らは、「これからの社会のために、よりよい学びとは何かを考え、学びの場を自ら創りだし、増やしていく」というコンセプトの下、NPOのスタッフとして、ワークショップの理論と実践を往復しながら学ぶ大学生向けの勉強会をネット上で展開している。

筆者は述べる。「学術の世界においては、さまざまな人が改善できるように研究の問題・目的・方法・結果を公開することが大切に行われている。新しいアイデアを持つ人々がその知見を利用し、イノベーションを起こすことができるからである」。

本書でも、あくまでも教育の視点から、一見「遊び」に見えるような活動も許容されるワークショップについて、活動目標と学習目標を設定し、これを達成するための「P(企画)―D(運営)―C(評価)―A(各段階の展開)について、既存の理論を援用して実践的に解説する。

ここで、相対的評価から診断



山内祐平、森玲奈、安斎勇樹 著  
1890円 慶應義塾大学出版会  
☎03-3451-3584

的評価への転換が重視され、新しい評価手法が紹介される。特に、「予期されていなかった学習」を見落とさず、次のA(改善)に反映させる、いわばPDCAサイクルの実現が目指される。このとき、一般的な論では、AからPに循環するのであるが、ワークショップでは、もっと実践的なモデルが想定されている。適切な評価による修正が、分析設計、開発、実施の全てのプロセスに対して迅速に、直接的に行われるのである。

フィールドに出て、地域で暮らして、働く人々に接しながら学ぶことができない場合でも、このような実践的PDCAサイクルに基づいたワークショップの展開によって、自由で柔軟な教育活動としての可能性はより高まるものと考えられる。

(聖徳大学教授・西村美東士)



3. 21. 評価や成果に対する科学的アプローチを



人々の生活や活動に参加して観察し、記述する方法として捉えらえる。また、従来の「科学的」な参与観察だけでなく、能動的に協働して、解釈を実践し、多元的な語りを得るインタビュー、自分の所属集団の内側からの観察、自分の問題を自覚した当事者とピアグループによる問題への対処、対話と相互行為の積み重ねによるライフストーリー構築など、新しいアプローチについても論考する。

「生きる力の育成」などの教育の目的を考えると、その多様性、動態性から、学習と指導の両側面において、エスノグラフィの手法は有効であると考えられる。

エスノグラフィは、一般に民族誌と訳される。本書では、調査者が組織、コミュニティなどの「フィールド」に入り込み、



**現代エスノグラフィ**  
新しいフィールドワークの理論と実践

藤田結子、北村文 編  
2415円 新曜社  
☎03-3264-4973

第一に、教師の一番の勝負の場である授業が、普段は管理職にさえ観察されることもなく、評価を受けることもできない。効果測定などの量的評価だけでなく、エスノグラフィの記述手法を活用した他者からの評価が、教師の自己客観視を育てるはずである。第二に、児童・生徒個人の日々の変化、特に社会性の獲得等に関する観察と記述を充実する必要がある。学習は、本質的に個人的事象だからである。第三に、総合的な学習の時間などにおいて児童・生徒が作成する「成果」を、学習成果としてだけではなく、エスノグラフィ的な研究成果として、科学的な評価や指導を行う必要がある。総合的な学習の時間については、現在「ゆとり批判」の波にさらされているが、それよりも、今日の科学的方法へのわれわれの理解が不十分であったことを問題にすべきといったら言い過ぎか。

(聖徳大学教授・西村美東士)

フィールドワークの面白さ、つまり「まなぶ」を全公開!

「成果」を、学習成果としてだけではなく、エスノグラフィ的な研究成果として、科学的な評価や指導を行う必要がある。総合的な学習の時間については、現在「ゆとり批判」の波にさらされているが、それよりも、今日の科学的方法へのわれわれの理解が不十分であったことを問題にすべきといったら言い過ぎか。

(聖徳大学教授・西村美東士)

3. 22. ACGという「クールジャパン」の革新と創造性、そして限界

宇野氏は、「日本独自の発展」を遂げているサブカルチャーを、「夜の世界」と名付け、その存在の大きさを指摘する。そして、「奇跡の復興を遂げ、それ故に制度疲労を起し、ゆるやかに壊れつつある高齢国家日本」を、「昼の世界の姿にすぎない」と述べる。「陽の当たらない夜の世界」こそ、革新と創造性を生み出してきたというのだ。

国家的にも「クールジャパン」として、ACG（アニメ、コミック、ゲーム）の輸出が重視される今日、生徒にとつての「夜の世界」の存在をわれわれも認識する必要があることは確かだろう。

後半では、「西洋近代のものとは異なった原理で駆動する新しい世界」の象徴として、AKB48を取り上げる。劇場公演、握手会、選抜総選挙、じゃんけん大会といったシステムの意味を吟味し、資本主義によって人間の想像力が画一化するところ



**日本文化の論点**

宇野常寛 著  
756円 ちくま新書  
☎03-5687-2680

か、欲望が多様化し、変化したと評価する。しかし、生徒の想像力、創造力は、本当に育ってきたのか。教育は、従来の文化を伝承するだけでなく、新たな文化を創出する営みでもある。サブカルチャーは、「サブ」という名の通り、現在の支配的文化に対する単なる「下位の文化」にとどまる恐れもある。望ましい文化創出のためには、連帯や共同などの教育的価値を伝えるとともに、社会の現状に問題意識を持ち、これに対抗する文化(カウンターカルチャー)の担い手を育成する必要があるのではないか。東日本大震災後、人々の絆や地域の重要性等の若者の認識は高まっているはずである。ただし、押し付けで文化は育たないことはいままでもない。(聖徳大学教授・西村美東士)

か、欲望が多様化し、変化したと評価する。しかし、生徒の想像力、創造力は、本当に育ってきたのか。教育は、従来の文化を伝承するだけでなく、新たな文化を創出する営みでもある。サブカルチャーは、「サブ」という名の通り、現在の支配的文化に対する単なる「下位の文化」にとどまる恐れもある。望ましい文化創出のためには、連帯や共同などの教育的価値を伝えるとともに、社会の現状に問題意識を持ち、これに対抗する文化(カウンターカルチャー)の担い手を育成する必要があるのではないか。東日本大震災後、人々の絆や地域の重要性等の若者の認識は高まっているはずである。ただし、押し付けで文化は育たないことはいままでもない。(聖徳大学教授・西村美東士)



3.23. 学校によるこころのケア、生活のケア、そして地域コミュニティの拠点提供

本書は、岩手県宮古市教育現場での防災の取り組み、被災状況、復興の記録である。前国立教育政策研究所所長・徳永保氏は、戦後日本の「青空教室」において、「学校施設が復興されず、衣食住が十分でないのにもかかわらず、何にも先駆けて教育が再興」されたことを想起する。社会教育の視点からは、「リヤカー引張つ張つても図書館だ」という戦後の図書館の思館人の気概を思い出させる。

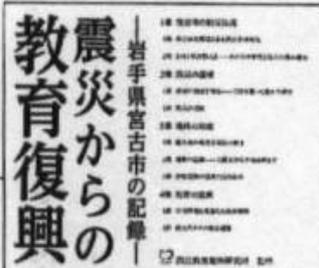
葉養正明氏は、震災以前の教育活動にどう戻るかという「教育復旧」の観点から、震災を糧とした取り組みをどう切り開くかという「教育復興」の観点への転換を示唆する。そして、①PISA等の国際順位の下下に敏感に反応した結果としての「ゆとりと充実」路線から「確かな学力」路線への軌道修正、②教育指導や学校運営の効率性を高めることに視点を置いた学校の適性配置政策の推進の2点について再検討を促す。

①に対して、被災地では、「学

習のケア」だけでなく、「心のケア」「生活のケア」が行われてきたというのである。日本の子どもたちも、学校が楽しいという子が多い。理由は「友達と遊べるから」である。教育においては、例えばその交友関係が支持的風土になるように指導することこそ重要といえよう。

②について、葉養氏は、学校を地域コミュニティの文化拠点として考える観点を効率化の観点と並立的に捉え、前者に遊びや住民の満足度を組み込んだ発想を見いだしている。生涯教育の視点からこれを讀んで、学校教育がそもそも児童・生徒一人一人の幸福追求と生涯学習の基礎づくりのためにあり、また、学校施設が住民の生涯学習の拠点の一つとして存在していることを再確認することができた。

(聖徳大学教授・西村美東士)



**震災からの教育復興**  
岩手県宮古市の記録

国立教育政策研究所 監修  
2625円 悠光堂  
☎03-6264-0523



【付録】クドバスチャート例示 技術・技能教育研究所ホームページ（主宰：森和夫 マニュアル公開中）  
「ホテル従業員レセプション部門」（抜粋） <http://ginouken.com/>

仕事	能力-1	能力-2	能力-3	能力-4	能力-5	能力-6	能力-7	能力-8	能力-9	能力-10
1 チェック イン・ア ウト、会 計をする	1-1 A	1-2 A	1-3 A	1-4 A	1-5 A	1-6 B	1-7 B	1-8 B	1-9 B	1-10 B
	チェック インの手 続きがで きる	コンピ ュータの操 作がで きる	団体業務 について 知っている	各種プラン の検索 ができる	宿泊変更 の対応が スムーズ にできる	前受金を スムーズ にお預か りできる	宿泊プラン 類の特典 を知っている	会計の業 務を知っ ている	部屋代の 料金の計 算がで きる	チェック アウトが できる
	1-11 B	1-12 B	1-13 B	1-14 B	1-15 B	1-16 B	1-17 C	1-18 C		
	部屋毎の 広さやレイ アウトを把握 できる	再度の来 館を促す 挨拶がで きる	部屋の料 金を総て 把握でき る	利用できる クレジット カードの種 類を把握 できる	クレジット カードの 利用限 度額を知 っている	UG客情 報を把握 できる	高額客室 を販売で きる	プレ CHER/ 予約確認 票、クー ポン等内 容を知っ ている		
2 予約を受 ける	2-1 A	2-2 A	2-3 A	2-4 A	2-5 A	2-6 A	2-7 A	2-8 B	2-9 B	2-10 B
	当日の稼 働率を把握 できる	周辺ホテル の稼働 状況を把握 できる	ブッキング コントロール の知識がある	先の予約 状況を把握 できる	予約の手 続きがで きる	英語での 予約問 い合わせに 対応できる	商品につ いて知っ ている	高額料金 の販売を 促進でき る	収入予算 と現状を 把握して いる	満室時の ルームコ ントロー ルがで きる
3 さまざま なサービ スをする	3-1 A	3-2 A	3-3 A	3-4 A	3-5 A	3-6 B	3-7 B	3-8 B		
	お客様同 士の電話 の取り次 ぎ、伝言 処理がで きる	FAX業務 ができる	メッセ ージが受け られる	ホテル周 辺のイン フォメ ーション処 理がで きる	客室内機 器（FAX, パソコン通 信）やアメ ニティーを知 っている	都内の観 光などの 情報を伝 えられる	貴重品の 出し入れ ができる	ホテル内 の施設の セールス トークが できる		

24

「高校生の子を持つ親に必要な能力」クドバスチャート（西村美東士「クドバスを活用した子育て学習の内容編成—高校生の子をもつ親のために」、聖徳大学生涯学習研究所紀要『生涯学習研究』3号、pp.41-54、2005年）

仕事	能力-1	能力-2	能力-3	能力-4	能力-5
1 前向きな態度を示す	1-1 A 人生に対して前向きな態度がとれる	1-2 A 人権を尊重する態度がとれる	1-3 A 自分が間違っていたら子に謝ることができる (BBS)	1-4 B 親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる	1-5 B 家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる
	2-1 A ほっとしておくことができる	2-2 A 子のプライバシーを尊重する態度がとれる	2-3 A 知っているも知らない態度がとれる	2-4 A 子を信頼することができる	2-5 B 子にとっては家がわずらわしいことを知っている
3 子の実態を理解する	3-1 A 子の今の精神状態を知っている	3-2 A 青年期は不安定な気持ちであることを知っている	3-3 A 青年期の心理的特徴を知っている	3-4 B すぐに反抗してくることを知っている	3-5 B 子の生活態度を知っている
	3-6 B 親にうそをつくことを知っている	3-7 B 子の友人関係を知っている	3-8 B 彼（彼女）がいるのを知っている	3-9 B 望ましい勉強方法を知っている	
	4-1 A 子からの相談や話し合いに応ずることができる	4-2 A 何に関心があるかを知っている	4-3 A じっくり話を聞くことができる	4-4 A わが子に注意ができる	4-5 A 子が悪いことをしたときき然とした態度がとれる
4 子と意識的に関わる	4-6 B 子がパニックにおちいっているとき冷静な態度がとれる	4-7 B 子が落ち込んでいるとき上手に励ますことができる	4-8 B 家では食事を一緒にするよう誘うことができる	4-9 B わが子にあいさつができる	4-10 B 高校生に適した性教育ができる
	4-11 B 子からの進路相談に応じることができる	4-12 B 現代社会の就職状況や仕事の内容について知っている	4-13 B 部活のおっかけができる		
	5-1 A 学校の様子を知っている	5-2 B 同じ高校生の子を持つ親と情報交換や相談をすることができる	5-3 B 学校側と緊密かつ自立的な連携ができる		
6 家庭を安らぎの場にする	6-1 A 家族との会話がでる	6-2 B 他愛ないおしゃべりができる	6-3 B 励ます時、子が何を食いたいかわ知っている		
	7-1 A お願いの態度がとれる	7-2 A そうじ、片づけを子にさせることができる	7-3 A 食事の仕度、洗たく、そうじができる	7-4 B 高校生に必要な栄養素について知っている	7-5 B 子にとっての必需品を買うことができる (買い物)
7 子と相互に生活を支え合う					
注1 能力の種別は右のとおりである		知識	技能・態度		
注2 能力の重要度は右のとおりである		A：非常に重要で、詳細に知っているか、よくできる必要がある B：普通であって、一般的に知っているか、普通にできればよい C：あまり重要でなく、概略を知っているか、体験していればよい			

注：上のチャートは、大学授業で一般的状況を想定して作成したため、臨床性に欠ける。それぞれの子育て現場の課題に基づき、より帰納的、網羅的に作成することが望まれる。